

報 告

乳幼児をもつ母親の育児仲間からのソーシャルサポートと育児肯定感・育児負担感との関連性

森下 順子¹⁾, 厨子 健一²⁾

〔論文要旨〕

本研究の目的は、乳幼児をもつ母親の育児仲間からのソーシャルサポート、育児肯定感、育児負担感との関連性を明らかにすることである。具体的な課題として、①育児仲間からのソーシャルサポートと育児肯定感との関係、②育児仲間からのソーシャルサポートが育児肯定感を媒介し育児負担感に影響する過程、以上2つを設定した。対象は、乳幼児をもつ母親に質問紙調査を実施し、364名の有効回答を得た。結果、①育児仲間からの道具的サポートが育児肯定感を高めること、②育児仲間からの道具的サポートが育児肯定感を介し、育児負担感の軽減に影響を与えることが明確となった。結果から、育児仲間の知識やアドバイスを提供する道具的サポートに着目する必要性を指摘した。

Key words : 乳幼児をもつ母親, 育児仲間からのソーシャルサポート, 育児肯定感, 育児負担感, 媒介効果

I. 問題と目的

子育ては母親にとって幸せや喜び、やりがいを感じると同時に、不安や悩み、ストレスの否定的感情も伴う¹⁾。母親が不安やストレスを感じた時、さまざまな方法でストレスに対処しようとする²⁾が、対処できなかった時に育児負担を感じ、場合によっては児童虐待につながっていく可能性もある³⁾。

保育所や幼稚園などを含む地域において、育児負担感を軽減する育児仲間からのサポートの重要性が指摘されている。大豆生田⁴⁾は、「親を「支援されるべき」対象としがちな実態もあるが、親同士（育児仲間）で問題を解決していく力がある、親同士のちょっとした交流やつながりは子育ての多くの悩みを解消してくれる」と述べている。子育てという同じ立場の親が出会い、育児にまつわる不安を分かち合い、助け合うことが重要といえよう。加えて近年、育児仲間からのサポートが育児不安を低める効果がある²⁾といわれており、

育児仲間のサポートに着目する必要性がある。

これまで、母親が他者から受けるサポートは、主にソーシャルサポートと育児負担感や育児不安、抑うつなどの否定的感情との関連性でとらえられてきた。先行研究では、夫を含む家族からのサポートが母親の育児に対する否定的感情を軽減するという研究報告が数多くなされている^{2,5~9)}。育児仲間を対象とした研究では、育児仲間からのサポートが母親の育児不安を軽減する効果がある⁹⁾ことや、育児仲間からのサポートは母親に対して肯定的な効果が大きいが否定的な効果もみられるという報告もなされている¹⁰⁾。しかし、育児仲間からのどのようなサポートが、育児負担感の軽減につながるかについては明らかになっていない。

近年のソーシャルサポートと育児負担感の研究では、育児肯定感にも目が向けられている^{1,11~13)}。実際に家族からのサポートと育児肯定感との正の関連性が明確にされている^{1,11~13)}。子育てでは、子育てに悩み疲れたといった育児負担感を抱えるのと同時に、子

Relationships of Social Support by Peers, Affirmative Feelings and Caregiver Burdens of Mothering Infants [2958]

Junko MORISHITA, Ken-ichi ZUSHI

受付 17. 9. 14

1) 和歌山信愛女子短期大学保育科（研究職）

採用 18. 7. 3

2) 愛知教育大学教育学部（研究職）

どもを愛おしく可愛い, 子育てにやりがいを感じるといった育児肯定感を併せ持つものである。住田¹⁴⁾は, 「育児に携わっている限り, 誰もがある程度の育児負担感を抱えるが, 通常は育児の肯定的感情が確固としているために育児負担感が喚起されることはない」と説明している。荒牧ら¹¹⁾も, 「サポートの受容が, 直接育児不安の軽減につながるというよりも, 育児肯定感のようなポジティブな側面に働くことで間接的にネガティブな感情を低めることに役立っている」と述べていることから, 育児負担感の先行要因として育児肯定感が挙げられるといえよう。したがって, 育児仲間からのソーシャルサポートと育児負担感との関係について, 育児肯定感を含め検討する必要があると思われる。

本研究は, 乳幼児をもつ母親の「育児仲間」に着目し, 育児仲間からのソーシャルサポート, 育児肯定感, 育児負担感の関連性について明らかにすることを目的とする。具体的には, ①育児仲間からのソーシャルサポートが育児肯定感にどのような影響を与えるのか, ②育児仲間からのソーシャルサポート, 育児肯定感, 育児負担感にはどのような関係性があるのか, の2点について検討する。育児仲間からのソーシャルサポートとして, 道具的サポートと情緒的サポートを設定する。理由として, ソーシャルサポートについて多様な種類が考えられているが, 大まかには道具的なサポートと情緒的なサポートの2種類に分類できるということは, おおむねどの研究者にも共通する考えとなっていることが挙げられる¹⁵⁾。さらに, ソーシャルサポートと一括にするよりも, 方法や知識の提供を含む道具的サポートとメンタルケアを含む情緒的サポートというように区分する方が, 実際的な子育て支援を検討する時に有効と考えた。

なお, 本研究において育児負担感を下記のように定義づける。育児負担感とは, 育児に対するネガティブな認知評価のことをいう。育児負担感, 育児困難感, 育児ストレスについては先行研究^{1~3)}において明確な定義がなされておらず, 内容が混同して使用されていることが多いため, 本研究では育児負担感に用語を統一して使用した。

II. 対象と方法

1. 分析モデルと仮説

本研究の分析モデルは図のとおりである。育児負担

感を従属変数にし, 育児仲間からのソーシャルサポートとして道具的サポートと情緒的サポートを独立変数とした。また, 媒介変数として育児肯定感を設定した。分析モデルに基づき検討される仮説は, 次の2つである。

仮説1: 育児仲間からのソーシャルサポートを受容していると感じている母親ほど, 育児肯定感が高い。

仮説2: 育児仲間からのソーシャルサポートと育児負担感との関係は, 育児肯定感によって媒介される。

2. 調査概要

調査は, A県内の3市町における認定子ども園1園, 保育園3園, 幼稚園2園の乳幼児(0~6歳)をもつ母親を対象として実施された。園ごとに園長または学級担任が母親に質問紙を配布し, 母親が回答した後, 園に提出したものを著者が回収した。質問紙には, 回答は無記名で統計的に処理されること, 個人情報への漏洩はないことを明記した。質問紙は, 2016年5~6月にかけて配布した。結果, 364名(回収率84.9%)の有効回答を得た。なお, 調査の実施前, 各園の園長に質問紙のチェックを依頼し調査実施の了解を得た。さらに, 1市の子育て推進課に調査依頼をし, 調査実施に質問紙の内容を含め課題がないことを確認している。回答者の平均年齢は, 32.36歳(SD=9.03)であった。子どもの人数の平均は, 2.10人(SD=0.79)であった。家族形態は, 核家族84.6%, 拡大家族12.4%であった。母親の職業は, 専業主婦17.6%, 兼業主婦76.9%, 育児休業中0.03%であった。なお, 研究の実施にあたり, 和歌山信愛女子短期大学研究倫理委員会に申請し, 承認を得ている。

3. 調査項目

1) 独立変数

ソーシャルサポートは, 小牧ら^{16, 17)}の道具的サポート, 情緒的サポートを参考にした。道具的サポートについては, 「子育て仲間は, わたしの子育ての苦勞に対して助言してくれる」, 「子育て仲間は, わたしに子育ての方法を教えてくれる」, 「子育て仲間は, わたしの子育てに役立つアドバイスをしてくれない(逆転項目)」, 「子育て仲間は, わたしが子育ての新たな知識を得ることに力を貸してくれる」の4項目である。情緒的サポートは, 「子育て仲間は, わたしが子育てで落ち込んでいる時, 元気づけてくれる」, 「子育て仲間

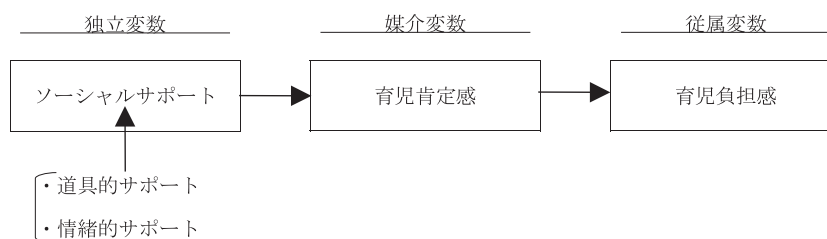


図 本研究の分析モデル

は、わたしが子育てで悩んでいる時、相談にのってくれる」、「子育て仲間は、わたしの子育てを「あなたのやり方でよい」と言ってくれる」、「子育て仲間は、わたしが子育てで気が動転している時、同情を示してくれる」の4項目を設定した。

2) 従属変数

育児負担感は、中嶋ら^{18,19)}の育児負担感尺度の中の育児への否定感情を参考にした。具体的には、「子育てによって自分の健康が損なわれる気がする」、「子育てそのものにしんどさを感じる」、「子育てに何となく自信がもてない」、「子育てに疲れて育児を放棄したくなる」の4項目である。

3) 媒介変数

育児肯定感は、荒牧²⁰⁾の育児感情尺度のうち肯定的感情を参考にした。具体的には、「子どもを育てるのは楽しいと思う」、「子どもを育てることは、有意義で素晴らしいことだと思う」、「子どもの成長が楽しみだと感じる」、「子どもを育てることによって、自分も成長していると感じる」の4項目である。

4) 統制変数

分析に用いる統制変数として、母親の年齢（実数）、家族形態（ダミー変数「0＝核家族」、「1＝拡大家族」）、子どもの人数（実数）の3つを設定した。

以上の独立変数、従属変数、媒介変数を構成する項目に関して、5件法によるリッカート尺度（1：まったくあてはまらない～5：よくあてはまる）で回答してもらった。

4. 分析方法

調査データの解析にあたっては、SPSS ver. 21を用いた。ソーシャルサポートとして道具的サポート4項目、情緒的サポート4項目、育児肯定感4項目、育児負担感4項目に関して、それぞれの項目を構成する尺度の信頼性係数（Cronbachの α ）を求めた。

媒介効果の検証において、Baronら²¹⁾による検証方

法を用いた。媒介効果が確認されるためには、1) 従属変数に対して、独立変数が有意な直接効果を与えていること、2) 媒介変数に対して、独立変数が有意な直接効果を与えていること、3) 従属変数に対して、媒介変数が有意な直接効果を与えていること、および、4) 従属変数に与える独立変数の直接効果の影響力が、媒介変数を重回帰式に追加投入した場合にどの程度弱まるのかの4つの検証が必要である。

Ⅲ. 結 果

1. 信頼性分析

独立変数、媒介変数、従属変数の信頼性係数を求めると、道具的サポート $\alpha = .85$ 、情緒的サポート $\alpha = .92$ 、育児肯定感 $\alpha = .78$ 、育児負担感 $\alpha = .79$ であった。信頼性係数の値がいずれも.70以上であり、尺度の内的一貫性が確認された²²⁾。分析に際して、各変数を構成する項目の平均値を用いた。各変数の平均、標準偏差、および相関行列を表1に示す。

2. 育児仲間からのソーシャルサポートと育児肯定感の関係性

すべての重回帰分析において多重共線性の確認を行った。道具的サポートと情緒的サポートの間にやや高い相関が認められるが、重回帰分析投入後にVIF（Variance inflation factors）値を算出したところ、 $VIF < 10$ ²³⁾であったため多重共線性の問題が生じていないことを確認した。よって、道具的サポートと情緒的サポートを独立変数として用いることにした。分析の結果は表2のとおりである。モデル1～5の説明をすると、「モデル1：統制変数と育児肯定感との関係」、「モデル2：統制変数、道具的サポート、情緒的サポートと育児肯定感との関係」、「モデル3：統制変数と育児負担感との関係」、「モデル4：統制変数、道具的サポート、情緒的サポートと育児負担感との関係」、「モデル5：統制変数、道具的サポート、情緒的サポート、

表1 分析に用いた変数の平均, 標準偏差, および相関行列

変数	M	SD	1	2	3	4	5	6	7
1 母親の年齢	32.36	9.03	1.00						
2 家族形態	.13	.33	.02	1.00					
3 子どもの人数	2.10	.79	.04	.05	1.00				
4 道具的サポート	3.99	.74	-.05	.01	.00	1.00			
5 情緒的サポート	4.12	.75	-.04	-.02	.08	.75**	1.00		
6 育児肯定感	4.42	.57	-.06	-.03	.05	.29**	.17**	1.00	
7 育児負担感	2.58	.86	.08	-.02	-.07	-.21**	-.13*	-.53**	1.00

*p<.05, **p<.01

表2 仮説1および仮説2の検証(階層的重回帰分析結果)

	育児肯定感			育児負担感	
	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4	モデル5
	回帰係数 (β)	回帰係数 (β)	回帰係数 (β)	回帰係数 (β)	回帰係数 (β)
Step 1 統制変数					
母親の年齢	-.06	-.01	.01	.06	.04
家族形態	.01	.00	-.04	-.04	-.04
子どもの人数	.06	.01	-.09	.09	-.06
R ²	.01		.01		
Adj-R ²	-.00		.00		
F 値	.71		1.55		
Step 2 独立変数					
道具的サポート		.36**		-.28**	-.10
情緒的サポート		-.11		.10	.05
R ²		.09		.06	
Adj-R ²		.07		.05	
$\Delta R^2 (1-2)$		.08**		.05**	
F 値		6.31**		4.23**	
Step 3 媒介変数					
育児肯定感					-.51**
R ²					.29
Adj-R ²					.28
$\Delta R^2 (2-3)$					.23**
F 値					22.43**

*p<.05, **p<.01

育児肯定感と育児負担感との関係」をみたものである。

育児仲間からのサポートと育児肯定感との関係を明らかにするために, 階層的重回帰分析を行った。モデル2の結果から, 道具的サポートから育児肯定感($\beta = .36, p < .01$)に対する標準偏回帰係数は有意であったが, 情緒的サポートから育児肯定感に対する標準偏回帰係数は有意ではなかった($\beta = -.11, p = \text{n.s.}$)。以上から, 仮説1について育児仲間からの道具的サポートを受容していると感じている母親ほど, 育児肯定感が高いことが明確となった。

3. 育児仲間からのソーシャルサポート, 育児肯定感, 育児負担感の関係性

育児仲間からのソーシャルサポートと育児負担感との間における育児肯定感の媒介効果を明らかにするために, 階層的重回帰分析を行った。結果は表2のとおりである。結果の記述については, Baron ら²¹⁾の4ステップに従う。

まず, モデル4の結果から, 道具的サポートから育児負担感($\beta = -.28, p < .01$)に対する負の標準偏回帰係数は有意であった。しかし, 情緒的サポートか

ら育児負担感に対する標準偏回帰係数は有意ではなかった ($\beta = .10$, $p = \text{n.s.}$)。

次に、モデル2の結果は、「Ⅲ. 結果 2.」で明らかにしたように、道具的サポートから育児肯定感に対する標準偏回帰係数が有意であった。さらに、モデル5の結果より、育児肯定感から育児負担感 ($\beta = -.51$, $p < .01$) に対する負の標準偏回帰係数は有意であった。

最後に、モデル4, 5より、育児負担感に有意な負の影響を及ぼしていた道具的サポート ($\beta = -.28$, $p < .01$) が媒介変数である育児肯定感を重回帰式に追加投入した場合、道具的サポートが育児負担感に与える直接効果は有意ではなく ($\beta = -.10$, $p = \text{n.s.}$)、育児肯定感の完全媒介効果が確認された。完全媒介効果とは、「独立変数→媒介変数→従属変数」の経路が確認された状態を意味する。

以上から、仮説2について育児仲間からの道具的サポートと育児負担感との関係は、育児肯定感によって媒介されることが明確となった。

Ⅳ. 考 察

本研究から、①育児仲間からの道具的サポートが育児肯定感を高めること、②育児仲間からの道具的サポートは、育児肯定感を媒介し、最終的に育児負担感を軽減することが明らかとなった。結果に基づき3点について考察する。

第1に、育児仲間からの道具的サポートが育児肯定感を高めることである。これまでの研究においては、夫を含む家族からのサポートが育児肯定感を高めることは明らかにされてきた^{1, 11~13)}。しかし、核家族化や少子化の進行、父親が家事や育児の時間を確保することが困難²⁴⁾な社会の現状がある。家族からのサポートが困難となっていることから、他者つまり育児仲間からのサポートが必要であるといえる。本研究から、育児仲間からの道具的サポートが育児肯定感を高めることが明らかとなったため、育児仲間からの道具的サポートに着目する必要があるといえよう。

若い親世代は少子社会の中で育ち、幼い子どもの世話をした経験がなく、身近に子育てにあたる親の姿を見る機会も乏しい環境に育っている²⁵⁾。そのことから、自分の子どもに合った育児に関する情報や、子育ての方法といった道具的サポートを得ることが困難になっている可能性がある。さらに、子育ては日々発達する子どもに対して、その時々に対応力が求められる。そ

のため子どもに対して常に新しい育児方法が求められる。だからこそ、育児仲間から道具的サポートを得ることが重要となってくる。同じ年頃の子どもをもつ育児仲間で、子育ての方法やアドバイスをやり取りする中で、子育て期を支え合うことが育児肯定感を高めることにつながるといえよう。

第2に、育児仲間からの道具的サポートは、育児肯定感を媒介し、その結果、育児負担感が軽減されることである。つまり、先行研究において指摘されている育児負担感の先行要因として育児肯定感が存在したことになる。子どもを育てる中で、まずは育児のすばらしさ、やりがいや魅力に気づくといった育児肯定感が必要である。自分の子育てに関する強みや良さに気付く、自信をもつという育児肯定感が、育児負担感の軽減につながると考えられる。母親が、自分自身の子育てに対する肯定的な側面に気づくということが重要といえよう。そのためには同じ立場である育児仲間から、情報や知識といった道具的サポートを提供され育児肯定感を高めることが望ましいことが明確になった。子育てにおけるストレスでは、直接的に効果のある軽減策を考えることも重要であるが、育児肯定感が育児負担感に影響することから育児肯定感に着目していくことも今後は求められるといえよう。

第3に、今後の子育て支援の在り方について考察する。子育て中の母親にとって、地域における子育て支援施設は子育て仲間を得るための大切な場である。ここでは、母親を「支援されるべき対象」として位置づけ⁴⁾、これまで支援者が直接的に母親へ支援する実践がなされてきている。さらに、保育所保育指針²⁶⁾においても保育者による保護者支援が明記されており、ここでも保護者は支援対象として位置づけられている。本結果より、母親が他の母親にサポートできるように、支援者はアプローチしていくことが重要であることが示唆される。母親が主体となり、「子育てを支援し支援される子育て仲間の関係性」を支えることが大切である。支援者は、場づくりと、来館する母親の特徴を把握して母親をつなぐ役割、さらには、子育て仲間同士で道具的サポートを提供し合えるように、専門職による子育て講座や、先輩ママとの交流などの「学びの場の提供の支援」が、さらなる子育て支援の充実につながる。といえる。

本研究の限界と課題は以下の2点である。1つ目は、育児仲間からの道具的サポートの具体的内容について

明確にできていない点が挙げられる。道具的サポートが育児肯定感や育児負担感に影響を与えることが明らかとなったが、いつ、どのような方法で、具体的ないかなるサポートが提供されたのかに関しては課題が残された。今後、質的な分析を通して具体的サポート内容を可視化していくことが求められると思われる。2つ目は、本研究において子どもの年齢が考慮されていない点である。ソーシャルサポートと育児に対する肯定的・否定的感情を扱った研究では子どもの年齢が踏まえられている^{12, 27)}。今後、調査の実施においては、子どもの年齢を含めて分析していくことが必要と思われる。

V. 結 論

乳幼児をもつ母親の育児仲間からのソーシャルサポートに注目し、育児仲間からのソーシャルサポートが育児肯定感や育児負担感にどのように影響しているのかを調べるために、質問紙調査を実施した。量的に分析した結果、下記2点が明らかとなった。

1. 育児仲間からの道具的サポートは、育児肯定感を高める。
2. 育児仲間からの道具的サポートは、育児肯定感を高め、最終的に育児負担感を軽減させる。

謝 辞

本研究を実施するにあたり、調査にご協力いただきました乳幼児をもつお母様、調査にご快諾いただきました6園の保育関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 荒牧美佐子. 育児への否定的・肯定的感情とソーシャルサポートとの関連—ひとり親・ふたり親の比較から—. 小児保健研究 2005; 64 (6) : 737-744.
- 2) 海老原亜弥, 秦野悦子. 保育園・幼稚園児を育てる母親の育児負担感—ストレッサー, コーピング, ソーシャル・サポートの関係—. 小児保健研究 2004; 63 (6) : 660-666.
- 3) 藤田大輔, 金岡 緑. 乳幼児を持つ母親の精神的健康度に及ぼすソーシャルサポートの影響. 日本公衆衛生雑誌 2002; 49 (4) : 305-313.
- 4) 大豆生田啓友. まとめと今後の課題 子育て支援ネットワークを形成するために. 発達 2009; 30 (120) : 86-88.
- 5) 山口咲奈枝, 佐藤幸子, 遠藤由美子. 未就園児をもつ父親の育児行動と母親の育児負担感との関連. 母性衛生 2014; 54 (4) : 495-503.
- 6) 酒井 厚, 松本聡子, 菅原ますみ. 就労する母親の育児ストレスと精神的健康: 職場も含めたソーシャルサポートとの関連から. 小児保健研究 2014; 73 (2) : 316-323.
- 7) 石晓 玲, 桂田恵美子. 保育園児を持つ母親のディストレスとソーシャル・サポートとの関係—育児不安と精神的健康度に焦点を当てて. 家族心理学研究 2013; 27 (1) : 44-56.
- 8) 森永裕美子, 難波峰子, 二宮一枝. 育児期における父親の親性と母親の育児負担感に関する研究. 小児保健研究 2015; 74 (4) : 519-526.
- 9) 佐藤ゆき, 加藤忠明, 顧 艶紅. 4歳児の母親の不安抑うつ症状と周囲の育児サポート状況との関連. 小児保健研究 2015; 74 (4) : 506-512.
- 10) 中村真由美. 育児不安と母親の仲間関係—母親の仲間関係のサポート効果を中心に. 尚絅学園研究紀要 A. 人文・社会科学編 2008; (2) : 1-12.
- 11) 荒牧美佐子, 田村 毅. 育児不安・育児肯定感と関連のあるソーシャルサポートの規定要因—幼稚園児をもつ母親の場合. 東京学芸大学紀要 2003; 55 : 83-93.
- 12) 荒牧美佐子, 無藤 隆. 育児への負担感・不安感・肯定感とその関連性の違い—未就園児を持つ母親を対象に. 発達心理学研究 2008; 19 (2) : 87-97.
- 13) 森下順子, 厨子健一. 乳幼児をもつ母親のソーシャルサポートと育児負担感, 育児肯定感との関係. 和歌山信愛女子短期大学紀要 2016; (56) : 23-28.
- 14) 住田茂樹. 母子の育児不安と夫婦関係. 子ども社会研究 1999; 5 : 3-20.
- 15) 浦 光博. 支えあう人と人: ソーシャル・サポートの社会心理学. 東京: サイエンス社, 1992.
- 16) 小牧一裕, 田中国夫. 職場におけるソーシャルサポートの効果. 関西学院大学社会学部紀要 1993; 67 : 57-67.
- 17) 小牧一裕. 職務ストレッサーとメンタルヘルスへのソーシャルサポートの効果. 健康心理学研究 1994; 7 (2) : 2-10.
- 18) 中嶋和夫, 斎藤友介, 岡田節子. 母親の育児負担感に関する尺度化. 厚生指標 1999; 46 (3) :

- 11-18.
- 19) 中嶋和夫, 種子田 綾. 障害幼児の母親の育児負担感と精神医学的障害の関係. 岡山県立大学保健福祉学部紀要 2004; 11 (1): 31-36.
 - 20) 荒牧美佐子. 幼稚園への入園前後における母親の育児感情の変化. 家庭教育研究所紀要 2008; 30: 139-149.
 - 21) Baron RM, Kenny DA. The moderator-mediator variable distinction in social-psychological research: Conceptual strategic, and statistical considerations. *Journal of Personality and Social Psychology* 1986; 51 (6): 1173-1182.
 - 22) 小塩真司. SPSS と Amos による心理・調査データ分析—因子分析・共分散構造分析. 東京: 東京図書, 2004.
 - 23) Chatterjee S, Hadi AS. 2006 Regression analysis by example, 4th ed. Hoboken, N J: John Wiley & Sons.
 - 24) 内閣府. “夫の協力 子育て世代の男性の長時間労働, 6 歳未満の子どもをもつ夫の家事・育児時間” <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/data/ottonokyouryoku.html> (参照2016-09-01)
 - 25) 大日向雅美. 育児不安—発達心理学の立場から. *こころの科学* 2002; 104: 9-15.
 - 26) 厚生労働省. “保育所保育指針” <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf> (参照2017-09-12)
 - 27) 石晓 玲, 桂田恵美子. 保育園児を持つ母親のディストレス—相互協調性・相互独立性およびソーシャ

ル・サポートとの関連. *発達心理学研究* 2010; 21 (2): 138-146.

〔Summary〕

This study investigates the relationships of social support by peers, affirmative feelings and caregiver burdens of mothering infants. Specifically, it addressed two themes: [1] relationships of support from others caring for children with affirmative feelings about child care, and [2] ways in which support from other child-carers with affirmative feelings about child care affects mothers' feelings that child care is a burden. A questionnaire survey of mothers with infants was conducted, which obtained valid responses from 364 people. The results clarified that [1] instrumental support from others caring for children enhances affirmative feelings about child care, and [2] instrumental support from others caring for children alleviates feelings that child care is a burden through encouraging affirmative feelings about child care. Based on the results, one recommendation is that it is necessary to focus on instrumental support that provides knowledge of and advice from others caring for children.

〔Key words〕

mothering infants, social support by peers, affirmative feelings of mothering infants, caregiver burdens of mothering infants, mediating effects